

## 第4回「原子力に係る安全性・信頼性向上委員会」議事概要

1. 開催日時 2021年4月19日(月) 13:30~16:00
2. 開催方法 Web開催
3. 出席者 野口委員長、出光委員、高田委員、天日委員、藤本委員、松田委員  
(幹事) 原子力監査室長

### 4. 議事概要

原子力の安全性・信頼性向上への取組みについて、前回(第3回)委員会が出された意見に対する取組み状況の説明、及び川内原子力発電所1号機の第4回、玄海原子力発電所3号機の第2回安全性向上評価届出における外部評価として、届出内容を確認していただいた。各委員からは、以下の意見等が出された。

(主な意見等)

[新型コロナウイルス関係]

- 感染力の強い変異株の広まりや家族内感染など避けがたい状況であるが、原子力安全確保のためには、交代要員の人数確保のみならず、事故対応など力量の観点からも予備員を確保しておくこと、また、感染拡大時の運転継続判断についても、事前に具体的な検討を行っておくことが重要である。

[廃止措置関係]

- 核セキュリティ文化の醸成、意識向上は重要であるが、核セキュリティに関する仕組みづくりも重要である。
- 廃止措置については、線量の高い設備に焦点が当たりがちだが、低線量の汚染物に対しても留意が必要である。

[作業安全確保関係]

- 作業安全に関して、第三者視点の活用はよい取組みであり、継続することが大切である。
- 様々な発生事案に対する対策のみならず、それらを超えて何かあったときを、普段から想定して対応を検討しておくこと、事案発生時に余裕をもった落ち着いた行動につながる。
- 安全対策について特別な成果に限らず、当たり前のことを地道に取組み、しっかり達成したことについても、評価し褒める文化が望ましく、関係会社社員のやる気や意識向上につながる。
- パトロールや講習会では、カバーできない部分もあるので、どこに危険性があるのか、全て洗い出せているかについて、全員で考える機会を設けることも大切である。

[安全性向上評価]

- 新たな改善について効果を示しているが、「どれだけ改善されたか」だけではなく、「新しいものを取入れることで、どんなリスクが発生したか」を考えることも重要である。
- 安全裕度評価等については、評価条件を丁寧に記載していたほうがよい。

以上